

## 2. 京田辺市田辺遺跡の円筒棺

小林 楓

### 1. はじめに

本稿では、京田辺市田辺遺跡で採集された円筒棺片について報告する。本資料は昨年度、京田辺市史編さん事業の一環で京田辺市内出土陶棺の調査（小林 2022）をおこなった際に、新たに確認したもので、田辺遺跡に未知の古墳が存在したことを示唆する重要な遺物であると考えられたためここに報告をする次第である。

### 2. 円筒棺

#### (1) 遺跡の概要

田辺遺跡は京田辺市田辺に所在する弥生時代から近世にまたがる複合遺跡である。古くから土器散布地として知られており、田辺町庁舎（現京田辺市役所）および体育館等建設に伴い 1983～84 年にかけて、3 次にわたる調査がおこなわれた（田辺町教育委員会 1983・1984）。古墳時代の遺物として埴輪や布留式甕が出土しているが、遺構は後期の竪穴住居が確認されているのみで、埴輪が並べられた古墳は後世に破壊されてしまった可能性が高い。

付近には古墳時代前期を中心とする 11 基で構成される興戸古墳群や、中期の古墳 2 基で構成される田辺奥ノ城古墳が存在する（奥村 1981、鷹野 1982、石尾 1997）。

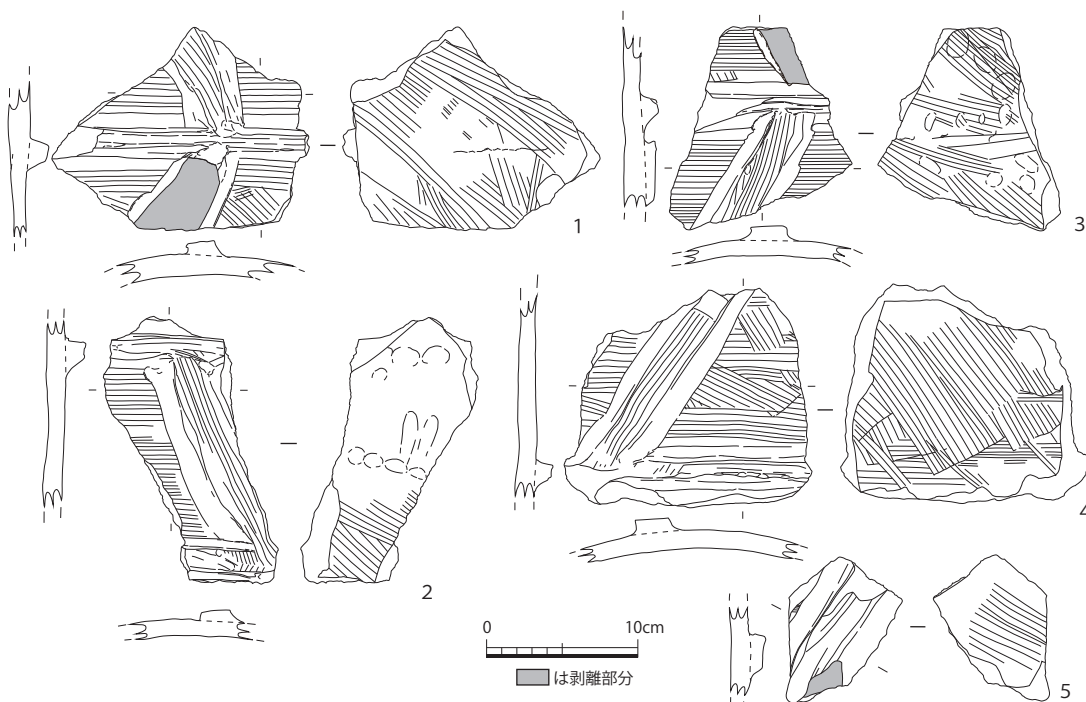


図1 田辺遺跡採集円筒棺 (S=1/5)

(2) 遺物の概要

円筒棺片は 5 点確認される (図 1、写真 3)。すべて破片資料であるが、円筒棺の棺身の一部であると思われる。遺物は 1～4 は 1983 年 3 月 31 日に、5 は 1982 年 8 月 27 日に採集されたことがわかるが、採集時の詳しい状況は不明である。遺物の記述にあたっては奈良県一本松古墳出土円筒棺を参考に (竹原 2012)、水平方向にのびる突帯を「横突帯」、斜めにのびる突帯を「斜突帯」と呼称する。

1 は横 17.0cm、縦 13.3cmを測る。外面はヨコハケのちナナメハケを施す。横突帯から二つの斜突帯が接続する (写真 1)。横突帯はしっかりと作り出し、上面には強いナデを施す。斜突帯は、横突帯よりも低く幅が広い。横突帯から離れるにつれて幅が広くなり、横突帯に比べると粗雑な印象を受ける。上面にはハケ調整を施す。内面は全体にハケ調整を施し、平行方向の粘土接合痕が明瞭に残る。ハケメ間隔は 5 本 /cmとやや粗い。内外面ともににぶい黄橙色を呈し、断面は黒色である。

2 は横 7.5cm、縦 17.5cmを測る。外面はヨコハケを施す。2 条の横突帯に斜突帯が取りついており、突帯間隔は 13.7cmである。横突帯上面にナデを施し、斜突帯の上面にはハケ調整を施す。内面はヨコハケとナデ調整を施す。ハケメ間隔は 6～7 本 /cmである。内外面ともににぶい黄橙色を呈し、断面は黒色である。

3 は横 11.0cm、縦は 12.4cmを測る。外面はヨコハケを施す。横突帯は上面には強いナデを施す。斜突帯は扁平で、上端部をハケ調整を施す。内面はヨコハケのち粗くナナメハケを施す。平行方向の粘土接合痕が明瞭に残り、突帯を接合した際の指オサエが明瞭に残る。ハケ原体の幅は 6 cm以上である。ハケメ間隔は 6 本 /cmとやや粗い。内外面ともに浅黄橙色を呈し、断面は黒色である。

4 は横 16.4cm、縦 14.5cmを測る。横突帯は上面を強くなでる。また、指で押圧したような跡が一定間隔で付けられている (写真 2)。斜突帯は扁平で上面にハケメを施す。内外面はともにヨコハケのちナナメハケを施す。ハケメは、5 本 /cmと粗いものと 6～7 本 /cmの細かいものがあり、原体は幅約 6cmである。内外面ともににぶい黄橙色を呈し、断面は黒色である。

5 は横 7.6cmと、縦 9.6cmを測る。突帯付近しか残存しないが、一部にヨコハケが残存すること、また粘土紐の接合痕跡から斜突帯であると考えられる。突帯の幅が狭い部分に剥離痕跡が確認できるので横突帯に接合していた部分と推測される。斜突帯上面には摩滅しているもの



写真 1 横突帯・斜突帯接合部分 (図 1-1)

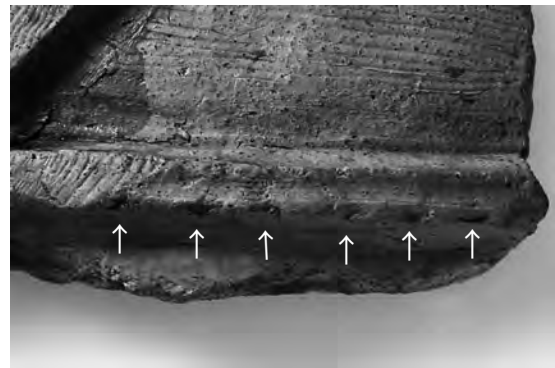


写真 2 横突帯にみられる押圧痕跡 (図 1-4)

表1 田辺遺跡採集円筒棺観察表

番号	法量 (cm)			突帯		調整		色調	焼成	黒斑	胎土
	横	縦	厚さ	縦	斜	外面	内面				
1	17.0	13.3	1.3	○	○	ヨコハケのち ナナメハケ	ハケ	にぶい黄橙色	良	無	良 (直径0.5~1mm程度の有色砂粒を多く含む)
2	7.5	17.5	1.1	○	○	ヨコハケ	ヨコハケ ナデ	にぶい黄橙色	良	無	良 (直径0.5~1mm程度の有色砂粒を多く含む)
3	11.0	12.4	1.0	○	○	ヨコハケ	ヨコハケのち ナナメハケ	浅黄橙	良	無	良 (直径0.5~1mm程度の有色砂粒を多く含む)
4	16.4	14.5	1.1	○	○	ヨコハケのち ナナメハケ	ヨコハケのち ナナメハケ	浅黄橙	良	無	良 (直径0.5~1mm程度の有色砂粒を多く含む)
5	7.6	9.6	1.1	×	○	ヨコハケ	ナナメハケ	浅黄橙	良	無	良 (直径0.5~1mm程度の有色砂粒を多く含む)

の、ハケメ痕が看取できる。内面はナナメハケが薄く残る。内外面ともにぶい黄橙色を呈し、断面は黒色である。

### (3) 小結

今回の資料では細片のためヨコハケの静止痕は確認できず、黒斑の有無も不明である。1・2、3～5は色調や製作方法に相違がみられたため、円筒棺が少なくとも2個体存在すると考えている。いずれも突帯が格子状にめぐると特徴から橋本博文分類のIV類にあたり（橋本 1980）、京都府下でのIV類の製作時期は円筒埴輪編年Ⅱ - 2期からⅢ - 1期すなわち前期末から中期初頭頃と考えられる<sup>1)</sup>。山城地域の円筒棺としては8例目、IV類は宇治市金比羅山古墳出土円筒棺につき2例目となり、突帯上面にハケ調整を施すのは京都府下では初の事例である<sup>2)</sup>。

## 3. おわりに

本稿では田辺遺跡から円筒棺片5点を報告した。田辺遺跡では、弥生時代の台状墓や古代の蔵骨器が見つかったが、正式な報告はおこなわれておらず、古墳時代のこともほとんどわかっていない。今回の資料は田辺遺跡のどこかに古墳時代前期末～中初頭頃に古墳が存在したことを示唆する資料であり、本遺跡の評価を考える上で重要であることを指摘し、この資料紹介を終えたい。

### 謝辞

今回の報告にあたり、京都府教育委員会北山大熙氏、京都府立大学大学院吉永健人氏には大変貴重なご教示をいただきました。末尾ながら、深く感謝申し上げます。

### 註

- 1) 京都府教育委員会北山大熙氏のご教示による。
- 2) 京都府教育委員会北山大熙氏のご教示による。

### 参考文献

石尾政信 1997 「府道八幡木津バイパス関係遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』77 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

- 奥村清一郎 1981「興戸古墳群発掘調査概報」『田辺町埋蔵文化財調査報告書』第2集 田辺町教育委員会
- 川口修実 2000「畿内における埴輪棺の展開について一試論」『古代学研究』第149号 古代学研究会
- 川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号 日本考古学会
- 北山大熙 2021a「円筒棺・埴輪類」『金比羅山古墳発掘調査報告書』京都府教育委員会
- 北山大熙 2021b「山城地方における円筒棺」『京都府埋蔵文化財論集』第8集 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 木村理 2022「古墳時代中期の円筒埴輪」『埴輪の分類と編年』(埴輪検討会シンポジウム2022資料集)埴輪検討会
- 小林楓 2022「京田辺市の陶棺および関連資料」『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第8号 京都府立大学文学部歴史学科
- 鷹野一太郎 1982「興戸古墳群」『田辺町遺跡分布調査概報』(田辺町埋蔵文化財調査報告書第3集)田辺町教育委員会
- 竹原千佳誉 2012「円筒棺」『馬見古墳群 一本松古墳』(奈良県文化財調査報告書第156集)奈良県立橿原古学研究所
- 田辺町教育委員会 1983「田辺遺跡試掘調査概要」(現地説明会配布資料)
- 田辺町教育委員会 1984「田辺遺跡発掘調査概要」(現地説明会配布資料)
- 橋本博文 1980「円筒棺と埴輪棺」『古代探叢』早稲田大学出版部
- 原田昌浩 2022「古墳時代前期の円筒埴輪」『埴輪の分類と編年』(埴輪検討会シンポジウム2022資料集)埴輪検討会
- 古川匠・北山大熙 2021「総括」『金比羅山古墳発掘調査報告書』京都府教育委員会



写真3 田辺遺跡採集円筒棺集合写真

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---